説明:

重力とエネルギーシステム

エネルギー研究の重要な部分はおよそ 1940 年以降起こった。そのときから、原子力の探求とコントロールは本当に始まる。

我々は、いくつかの概念がそれ以来発展したのを見る。

核廃棄物問題のない特別な実行概念は、まだ発展中である。(トコマク核融合炉のように)

原子力産業の世界は、地球で太陽の力をつくる夢に夢中のようである。

しかし、今日の核融合産業が約50年の研究開発の後、相当な持続可能なエネルギー量を生じることができなかったので、現在の核融合炉の物理的なデザイン構造の変化が必要である。

これらの核融合炉の故障の理由は、以下の3つの大きな誤算に根ざしている。

誤算 1:

これらの核融合炉は、すべて中心的な領域の症候群に苦しむ。

つまり、それを言うと、これらのすべては、核融合炉の中央に正に中心となる固体 を持つということである。

これは磁気コイル・リングの物理的な巻き線のループを容易にするためである、それで、磁場は生み出すことができ、核融合を達成するために、プラズマを正常な温度と速度に持ってきて維持することができる。

科学者が太陽の中心の温度を模倣し、それに達しようとするならば、これは基本的 な問題である。

人はいつ、太陽の中央に中心領域があるとみなしたのか?

誤算 2:

物理学の法則の基本的な逆転。

人が宇宙の磁場の力を見るならば、核融合の芯を所有しているどんな星ででも、中 心から、外へ磁力はつくられ、維持されている。

これらの人工のデザインでは、この物理学の法則をひっくりかえしており、そこでは磁場は、外側から中へと強いられている。

これは、科学者がそのような小さな出力のために大きなエネルギーを使う理由に関

する説明である。

我々の意見:

磁場の力はつくられなければならないが、広がるためには内部から外へと維持されなければならず、このように第 2 の磁場の力を内部に作成することが許されなければならない。そして、コアの中心にプラズマが含まれる。

誤算 3:

現在の核融合制作とメンテナンスの概念には、太陽の中央にあるような重力場の力 の源が不足している。

我々の意見:

核融合が継続可能なすべての元素を一緒に持つ太陽の神秘は、その芯に大きい重力場の力が存在することである。

これが意味するものは、太陽の中心は非常に高水準の重力場の力を備えていて、それが維持されるということである。(そこに大きなプラズマの物体がしがみつくことができる)、

太陽の中心部分のこの重力は地球の表面の上の重力の、何百から何千倍の強力なオーダーであることを示している。

過去から現在まですべてのトコマク-タイプの核融合反応炉でのテスト結果の報告を 人は読むことが出来る。

人が英国の最新の融合実験を担当している男に尋ねると、これら全員が炉心の重力 は均一で地球の表面の上のわずかな重力であると報告する。

これは、主に次の事実による、

それは、炉心でプラズマを維持するために、重力場の力をつくり、それに合わせて 維持するように考案されたシステムではない。

これが達成されるか、達成できたならば、外側のコイルで磁場の力をつくるための 大規模な電流の入力の必要はないだろう

核融合炉は重力場の力の存在なしに、その力をどのように維持できるというのか? これは、生地となる小麦粉も卵もなしにスポンジケーキを焼くようなものである。

核融合を継続するためのプラズマを維持するための主要成分を一緒に持たずに融合 をどのように、人は達成できるのか?

これらの問題が科学者によって理解され、調整されたとき、宇宙の場合のようにこ

れらの力と材料が適切に扱われるだろう。

世界の核融合の科学者が言わず、考慮もしなかった他の問題は、トコマック核融合 炉でこれらをつくろうとするときに発生する摂氏1億度の温度に関する問題である。 地球の大気圏への再突入で起きる2、3千度は、コロンビア・シャトルを溶かした。 現在のテクノロジーは、2、3千度程度の温度を取り扱うことができない。 問題は以下の通りである:

これらは、芯からの熱の放出に対する準備をせずに、直径 2 メートルのトコマックの中心で 1 億度の温度を長時間どのように、取り扱えというのか?

この問題は、核融合エンジニアが何について答えることを避けているのかということである。

これらは日本と共通の金融マーケットから 20 年で 130 億ドルを費やした後、50 年 後に答えを受け取ろうとしている。

また、他の発明者による特許出願でも我々はこれへの正しい対処法を見ていない。 この特許出願で要求する方法は、一遠心性および真空の状況下で一いろいろな物理 的な現象につながるプラズマ的な状況をつくる目的をもった反応路にある、少なく とも 1 つの中心の回転する磁場によって、乱気流、回転、圧縮、そして、ガス状の 物質の熱が、作製されるのだが、その際の対処法である。

また、我々はそこでの対処方法についての特許を要求している。

-遠心性および真空状況下でイオン化状態の存在するところで一少なくとも 1 つの中心で回転する磁場によって乱気流と回転と圧縮、そして反応路で熱せられ、目的に合わせたプラズマティックなガスの物質をつくる目的で、いろいろな磁場が創造されるが、すくなくとも 2 つの磁場の関わりによって少なくとも 1 つの重力現象が作成される。

この特許出願で、我々はより効率的で高い、電気エネルギー準位と、比較的安いコストで、物体または物質の中心に重力と反重力を作成する方法と、概念、テクノロジーを明らかにする。

我々は、これを太陽系にある惑星についての概念とその位置づけに類似したものと 見、理解することは重要である。

地球とすべての惑星と星は、セントラルヒーティングの芯を所有する。

核融合での熱と運動の作成とそのメンテナンスについての標準の理解も方法もなく、科学者はその運動とエネルギーの技術的な進展にあわせて、その時々に選択をした。 惑星の、エネルギーの源の、大部分は1つの共通の元素によっており、1つの統合化システムとして熱と、磁力と重力を備え、維持している。

惑星 planets の中央で、得られる温度は、星 stars の場合のような何百万度というよりは、むしろ摂氏数千度程度である。

しかし、こうした熱と、磁気と重力をつくり出すが、実は、これらのすべての効果は、すべての温度の段階で成し遂げることができる。

このことは、この特許で反応炉のデザインを通して証明している。

これらの惑星の磁場と引力の強さは、惑星のサイズまたは星の内部の他の要因または星の内部構造というよりも、材質の組成と惑星の中心核の運動の速度に依存している。

宇宙での膨大な熱量は、突然生み出されたりせず、それは、1つの融合の例で示されているように、システムのある場所と、星に発生している。

宇宙で小さなシステムでも大きいシステムでも成し遂げ成功するためには、法則と手順がある。

システムが成功し、活動中にするためには、熱の作成のため、また磁力フィールドとそれ以降の重力フィールドとその他の作成でも、どんなシステムまたは核融合炉のデザインでも、これらの法則は、忠実に適用されなければならない。惑星と星は物理と物質の自然の法則を使っており、そしてコントロールルームと燃料とは別々ではなく、これら自然の法則の全てを、同時に、一緒に機械的に実行している。

これらは、1つの完全な統合化システムとして動いている。

こうしてテクノロジーと知性の世界でこの反応路のデザインによって、最初に、基本的な原理が陳列される。そして、より上位にある効果が全て見てとれるように開発された。

そして、より多くのことがシンプルに非常によく達成することができた。

同時に、自然の一般的な方法の場合のように、すべては、完全に 1 つのシステムに集積されている。

これは、この特許出願に付けた別紙で、非常に明確に説明している。

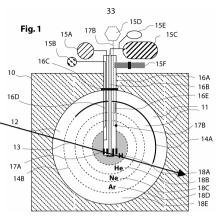
その別紙はこの特許出願の不可欠な部分で、我々の新しい核融合路が機能する概念 と考えをより明確に分析しており、読者の理解を助けるかもしれない。

発明は核融合炉の-具体化<mark>(10)</mark>による、重力生成システムと、その方法、概念とテク

ノロジーに関するものである。

エネルギー的な現象の連鎖は、回転する磁性物質 (17A) を通してつくられる、

基本的なガス(すなわち水素 18A)または他の物質、のイオン化の開始から始まって周期表の次の層の導入されたガス状の他の全ての元素(すなわち He 18B、Ne 18C、Ar 18D、Kr、Xe 18E)(すなわち蒸気の)、および(すなわち Li、Be、K、Ca、Ti、…Pt など)と、これらの導入された分子の組合せへの制御可能



なエネルギーの転移の連鎖反応を起こす引き金が引かれる(いわゆるシンチレーション Scintillation)。低い密度にはこのシンチレーションはない、

銀河の低い質量の原子状水素の環境には、どんなシステムが作られるときにも存在する、現象の連鎖にともなうイオン化のプロセスがない、あるいは、銀河がイオン 化のプロセスを与えるとシステムの作成と現象の連鎖が始まる。

シンチレーションは、宇宙でシステムが作られるどんな時でも、スタートのための点火キーである。

芯にあるすべての不活性ガスが異なる材料と連携するか、または反応路の中心で、 すべての不活性ガスがその状況で、シンチレーションの材料のために使われること になる。

熱、力と重力を発生させる必要があるどんなシステムの活動でも、シンチレーターのために使用する液体ヘリウムとネオンと他の不活性ガスは、重要な元素である。 ヘリウムとネオンは、不安定な同位元素を自然の中に持っていない、したがって固有の放射性の特性がある背景は、全くない。

そういうわけでカロリンコアの中心にガス化とプラズマの加熱を始めるのに必要な ウルトラバイオレット紫外線促進剤源を作り出すのに水素原子の最初のイオン化は、 良い導入源である。

星の爆発を追憶する銀河の紫外線の光子は水素原子から完全に電子をはぎ取るのに 十分なエネルギーを持っており、水素原子をイオン化する。

水素の原子が 912A の波長で光子を吸い取られると、原子に電子の運動エネルギーが 余分なエネルギーとして入ってイオン化される。

このイオン化には、13.6 ボルトの電子または紫外線領域の 912 A の波長のより大きな光子エネルギーが必要とされる。

『電子』の間の衝突」の熱 thermalise は、これらのエネルギーによっており、このエネルギーはガスを熱し領域を高温にする

観察された非常に低い圧力の水素 HI の高い比率を説明する際に、雲の発生の理論的なモデルは、ウルトラバイオレット紫外線と柔らかい X 線光電熱の役割に対する新しい洞察を提供している。(熱を伝導する接点のことだけでなく)

これらの比率の指標はイオン化された水素には使用の必要はなくガスがプラズマ状に加熱された天然水素には必要である。

現在、考慮すべき点の大部分は、イオン化された水素の使用とウルトラ紫外線放出との関係にある。

最近の研究と調査結果は、この領域が新しい逆の状態になる努力を許している。

それは、銀河でエネルギー光子を受けた水素の基底状態はイオン化され、興奮状態 になり、紫外線が極端に、変動するのが観察されている

それから、触媒作用で基底状態に戻ることで、エネルギーをリリースするが、それ は周囲のガスを熱いプラズマ状態に加熱するために、用いることができる。

このシステムのためのエネルギーと電流を出すため新しいアプローチとして、イオン化されていない、天然水素と原子状水素を用いて、ウルトラ紫外線を用いるのを開始すると、ウルトラ紫外線だけよりもむしろイオン化をうむことになる。

この新しい理解によって、非核環境での低温活動で、少ないエネルギーの入力でより高いエネルギーの放出のための、作動が可能になる。

これらの事実によると天然水素が使われると、水素原子は、吸収したよりも多くの原子を放出することができないので、ウルトラ紫外線より上の領域での放出の可能性はない

つまり天然水素原子によって、最大のウルトラ紫外線エネルギーを吸収すると この原子が基底状態に戻るとき最大のウルトラ紫外線より下のエネルギーをリリー スできるだけである。

そのときシステムに十分役立つエネルギーと自由電子を同時にリリースする。

この理由から、水素のためのウルトラバイオレット紫外線を使った、新しい点火システムの必要と、紫外線マイクロウェーブによるイオン化が、考えることができる。

1950 年代後半に Thorindike はウルトラバイオレット紫外線を生み出すために液体 ヘリウムをアルファ線またはベータ線源の上に動かすことによって、液体ヘリウム の閃光を発見した。

ストックトンは非常に激しい波長範囲の放出の後、紫外線のスペクトルがおよそ 80nm に極端に集中していることを、明らかにした。

アダムズは、光子それ自身の強い閃光を説明する理由のために、液体ヘリウムの強 さを確かめた。

アルファー線またはベータ放射線源を用いることで液体へリウムの閃光は成し遂げることができる。(アダムズはアルファー線またはベータ線源の使用による液体へリウムの刺激でのイオン化の密度を測定した)

アダムズはそれを計算し、ベータ線によって流体へリウムの粒子に預けられたエネルギーはすぐにウルトラバイオレット紫外線の光を発し、流体へリウムから放出される全エネルギーの35%あると考えられた。

反応炉の中心ですべての元素が熱せられる初期には、ウルトラバイオレット紫外線を使った、キャロライン芯の中の水素の原子のイオン化がなければならない。そして、圧縮された液体ヘリウムによって芯に伝えられる。そして、それはキャロライン芯に入る前に放射性源にさらされる。

水素原子のイオン化のこの方法は銀河で観察される、したがって、同じことは反応炉の環境で正常な状態で簡単に成し遂げられなければならない。

真空状態のウルトラバイオレット紫外線は、直接水素の光のイオン化を迅速に引き起こす。

そこで低いエネルギーの光子は、切断したものの結合を引き起こし、熱電子のイオン化を遅らせる。

このように、ウルトラバイオレット紫外線の使用は、反応炉を冷却されたところから始動するのに直接的で高速な方法である。

ウルトラバイオレット紫外線の生産のための放射性元素の正しい選択として、液体 ヘリウムと、ネオンは重要である。

この正しい選択によって、<mark>液体ヘリウムが反応炉の中心にガンマ線エネルギー準位</mark> の放射線を運び込む可能性を、全くなくすことができる。

したがって、キャロライン中心で使われるガスの異なる組合せと量によって、シンチレーション閃光のための優れた照射源は、直接的な影響を受ける。

中性子遮蔽<mark>トラップ</mark>施設の利用と、シンチレーション装置の照射を受けた部屋を見ることで中性子がキャロラインコアの中心に入ることができないことを確認するこ

とができる。

それは装置の中心に、高エネルギー光線を発生させることができる。(キャロラインの中心において他の材料との交互作用でX線またはより高水準のエネルギー光線をリリースする放射性連鎖の現象をつくることができる)

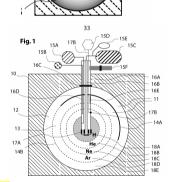
具体化された反応炉は、少なくとも 1 つの空間($\frac{26}{26}$)またはより多くのしきられた空間 ($\frac{27}{27}$) を持っている。(すなわち空洞 $\frac{11}{11}$ 、層、下位の部屋といった)

これを、理解することは、非常に重要である。 26 と 27 は、2 つの 異なるアプローチ方法を示している。

26 は1つの容器を備えている反応炉を示す、そして、内部は一純粋なガスの概念からみて 一いくつかの層に分かれた不活性ガスである。(または物質と他の物質、またはガスと他の物質との混合物)これらの層は、これらの原子量と遠心性および真空状況によって、反応炉に穴がつくられる。層が異なる回転速度を持つので、中間層の領域にキネティックな、磁気と、他の影響がある。

27 はその代わり本当に物理的壁がある反応炉を示す(すなわち鋼の壁と、液体状物質と、強いエネルギーで vearing している物質) そしてそれは反応炉を2つの領域に分ける、

そして、各々は、自身の内部のプロセスを持つかもしれない そして、特別の層を必要にする。



28A

両方の磁場は、互いに対立する方向にコントロールされ干渉する。

この物理的壁はダイナミックで動的かもしれず、いろいろな理由から特定の安全が 保証された条件の下で開くようにされているかもしれない、

あるいは、その処理が適切ならば、この切り離された領域は一 接続手段によって物質またはプラズマを交換するかもしれない。

科学の世界で知られているプラズマ、ガスと、すべての物質の液体状態および固体 状態の原子構造の協力と相互作用はこの装置を理解するための基礎で、この反応炉 のエネルギーの作成の概念の基礎がある。

真空と遠心分離機環境でのこれらの作用の原理は、研究され、過去の数十年の間詳細にカタログ化されている。

これらを封じ込めたので、真空環境のガスが液体のようにふるまうと理解すること

は、最高に意味がある、そして、この2つの状態は変わることができる。 わずかな温度の変化または反応炉の中心の圧力の変化によって同じシステムの中で 1つの元素が同時に特性を変える。

これは、液体と固形状態の間の変化も同じである。

スペースの中にある 1 滴の水の性質とこれらが真空状態で浮く方法を観察すると、 ガスは真空でも同じように動き、封じ込められたスペース全体を支配するが、水は 真空でもクラスターの状態にとどまっている。

過去の研究は、その真空の中にあるガスを理解した、そして、中央の集団の粒子の小さいガスから外層の最も重いものへと、互いの原子量に従い、遠心分離し、カプセル化する。

これはネオンがヘリウムをカプセル化するように、重いガスが、ネオンその他のガスを内部に閉じ込めることを、意味する。

不活性ガス化のための第 2 の重要な原理は、遠心分離機の中の真空の状態で、これらが互いに<mark>混ざらない</mark>ことである。

この要因はどんなエネルギー・システムの開発でも重要な役割を果たす。そして、 それは持ち歩けなければならいほど軽くなければならない。

しかし、柔軟さと同時に、エネルギー的で機能的なこの力は、そのメリットのため に重力、反重力の生産と、重力の遮蔽と医療用の使用といったその他のどんなシス テムでも使うことができる

このシステムの上記の基準を利用可能にするため、中で水素の原子と、分子と、その同位元素をイオン化された形にすることは重要である、それは、炉心の最初の熱の製造の主要な元素である。(そのまま宇宙空間でもそうしている)

中の原子と分子レベルの水素ガスには若干融通がきく特性がある、これらが正常な 組合せで正確な時間に正しい目的のために使われるならば、この水素ガスの元素は、 すべての装置のシステム・エネルギー創造の必要条件を最もよく解決してくれる。

この特許で、システムが開発されると、<mark>初めて</mark>システムの中心で問題なく、水素形態が利用可能となる、

中心の真空の遠心分離機室で主要な状態は、つくることができ、連鎖現象の始まりのため最初の熱を引き起こすので、どんなシステムでも望ましい効果をひきおこす、 それは、予め定められたかなりの量の電流による膨大な量の熱の作成につながる。 反応炉の中心の内外の分子レベルの磁場状態は、分子レベルで2つの磁場を作成し、2つの磁場の相互作用は、システムの中央に最初に生み出される「重力」のために、重力の作成とコントロールに導く。

水素が他の元素とともに使われると、水素はその原子のイオン化を達成するために

13.6eV のエネルギーを集めることができ、どんな原子との関係で

もイオン化するという簡単な特性がある。

同時に、水素には、その近くの3番目の元素にこの達成されたエネルギーを放出して、この相互作用の中、この第3の物質とともに、す速く基底状態に戻る能力がある。

イオン化とエネルギーの放出という、この使われている方法は、磁気効果と重力と エネルギーの作成というこの反応炉のデザインの背後の原理である、

反応炉の中心に他の元素がもたらされて、システム全体で、水素の本当の性質がその力を発揮する。

このシステム中心にすべての元素がどれほど導かれる

か、挿入されるかで、その時システムに求められた効果

を全体としてつくることになる。システムが電力発生器でもあり、

同時にガスの 1 つのパラメータまたは他の 1 つの元素の導入といったわずかな変更で、このシステムは重力マシンになる。

そして多分、2つの効果を結合することになる。

人はシステムを持つ。それはエネルギーを発生させるだけでなく、重力を持ち、反 重力もつくる。

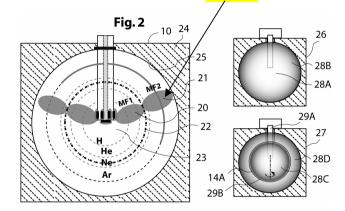
このように発表が単純なために、最も単純な形のエネルギーとして、重力システム は議論され、明らかにされる。この特許出願で、我々は反応炉全体の中心領域を中 心芯(またはキャロラインの芯)と呼ぶが、この外にある外側の領域は、中心から 切り離されている。

物質のいくつかの層、またはプラズマは巧妙に分離されると考えられる

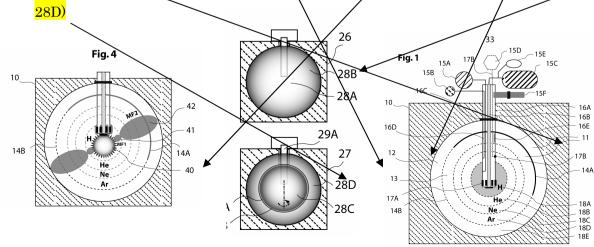
固体(14A)、あるいは、ガス(14B) または物質の他の状態ごとに、階層化している。

中間層の移動の連鎖によって、次のような、他のいくつかの物 理的な現象が引き起こされる:

- 1.反応炉室の内側での圧縮・放散、
- 2. 反応炉の室のなかでの物質の回転、
- 3. 反応炉の中心のコアでの 2 つの磁場 (20 と 21) との相互作用、

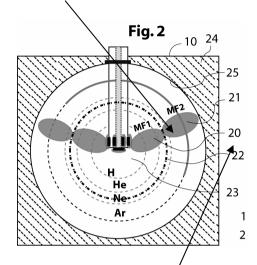


4.柔らかいか、固い磁場のイオン化による熱の生成と発達($\frac{40}{40}$)そして、中心の芯の物質、(またはカロライン芯と呼ぶ)($\frac{13}{28A}$ 、 $\frac{28C}{28C}$)とこれらの磁場との再接続、そして、反応炉室($\frac{11}{10}$)のコアの外側につくられる方向が反転している磁場($\frac{12}{12}$, $\frac{28B}{12}$,



5. 磁気圏は、中心の芯と核の外側の磁場に、2つの磁場(22)をもたらす、

MF1 磁気流 1 と MF2 磁気流 2



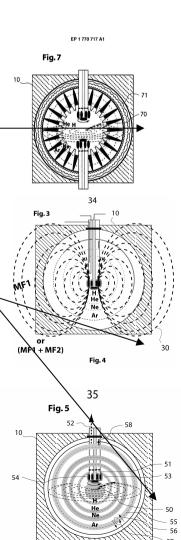
- 6. 芯の材料またはプラズマを加熱するために光線の放射は、 ウルトラバイオレット紫外線に上昇する、
- 7. 対流運動とその発生(<mark>71</mark>、<mark>81</mark>)は電流をつくり(<mark>80、82</mark>)

一つまたは2つの磁場を作り出す。そしてそれはガスや関係する物質が基底状態から刺激された-状態まで基本的な周期的変化/再反転をつくる、

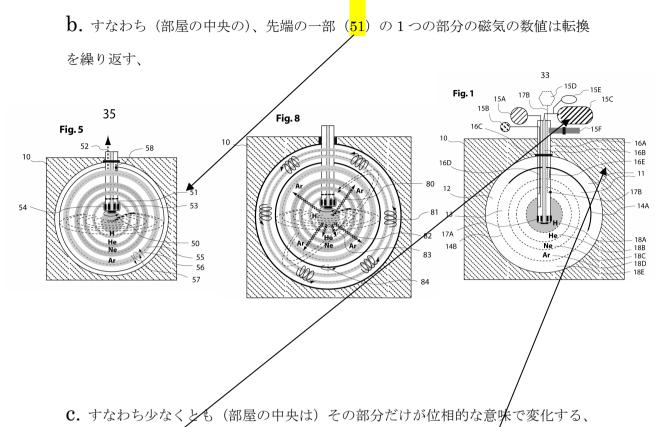
少なくとも 2 つの芯の 2 つの磁場の間の相互作用は、2 つの球状か他の形の重畳された磁場(20 と 21、30)を作成し重力と反重力の作成につながる。

これはカロラインの芯の格納容器(全 18 を見る)の回転(560を引き起こす、そして、内核(84)の回転は少なくとも 1 つの部屋の中心領域の回転を引き起こす。その中心領域(16A)は、反応炉室に関して望ましい機能をもち、いくつかのデザインとタイプを持つかもしれない、そして、それはデザインの目的によって、多様なものになるだろう:

a. 部屋の外に置かれる電源(15F)によって完全にどちらの



方向にも回転するようする



1本の極性が混合した羽根のような 1 つの火花を巧妙に発する($\frac{16E}{15C}$)物理的なユニット($\frac{15C}{15C}$)でおおわれている。

または回転する放出口と考えられる、

d. どちらも、完全に静止している(図 9)(一定に)しかし、それは電磁石(90)

Fig. 9

周期的な好ましい位置と方向で、一

好ましい状態で 一極性と/強さを変えることができる(92A、92B、92C)、

その方法は中心のコア、および/他の優れた中心で乱気流を引き起こすことができる、

e.

 \mathbf{f} .それは 少なくとも 1 つの対称形や非対称形のチャンネルと呼ぶ。それはその左右の先端にガスを (ses) ポンプ輸送することができる。

g. 前の組合せの、中心列(16A) には、少なくとも非常に巧妙に

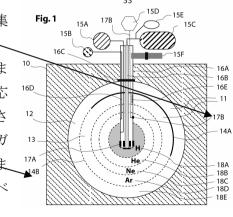
作られた関連したガス (ses)、物質やプラズマ(23)の放出や収集の可能性のある内部ルートがある(16D——(すなわち 16B のボアホールである i.e. a borehole 16B))。

中心的な領域に出来るだけ巧妙に作られた、少なくとも 1 本の電極を設置することができる (17B) または反応炉の外側に電流を集め輸送するために非常に適切ないく

このようにいくつかの目的のために 電流は集めることができる。

つかの電極も作る。(17C)

中心領域は一反応炉のタイプと、ガス、物質またはプラズマのタイプと各々のガスの種類に応じて、(すなわち 14A、14B) また望ましい高さで階層化している物質やプラズマの位置と、ガスまたは物質が持つ原子量および/プラズマまたは物質の注入の目的に対応して、異なるレベルの一つ以上の注入-口を持つことができる。



反応炉(10)は人工材料またはなんらかの性質の材料または原子か分子状態でも作ることができ(24)、-少なくとも1つの空洞のスペースが置かれた1つの部分でできている、

(11) そして、必要ならば関連したパーツ(すなわち壁 25)の腐食、積極的な酸などに対してよく知られた仕方で完全に保護する(すなわち薄板にして、塗り、覆うその他の方法で)

Fig. 5

反応炉(10)の外側には、例えば、

圧力タンク(15A)、逆のタンク(15B)、ターボ分子ポンプ(15E)、ガス・シール、シンチレーション装置(15C)、電気ブラシ(15D)、熱除去室、弁、ポンプ、チューブ、停止の手段、測定手段、コントロールセンサー、エンジン(15F)、ギア、電源、電気コンポーネント(すなわるヒューズ)、コンピュータ、IC などいくつかの関連した基礎的システムが置かれる:

機械の最初の回転や(すなわち 3,000rpm で)電磁気が発生 する回転の後、内部の回転は、磁場との相互関係に関係して 54 続けられる (50) (自立したプロセス)、

多くのコア層とこれらを封じ込めた部分との相互関係から、 適切で可能な反応炉概念は、次の多くの中の 1 つを持つか もしれない:

a

中心領域は、機械的に引き出されるかもしれない(52)/ もしも内部との相互関係のため、部屋の中に入れることができ、電流を集める必要があるならば、新しいガス(ses)物質やプラズマを加え、/または適応するよう、物質と密度の体積比の高低のバランスを修正する

b.もう一つのコンセプトまたは複合のコンセプトでは、中心領域は、中心領域の先端 (53) (中心的な位置) に、最低 2 つの異なる磁気極(54)を持つ、In another concept or a combined concept the central column will have on his tip (53)(central position) at least two magnetic means (54) of different pole,

しかし、その数セットを、うまく、互いのリングの上または、その次の両極性に直面するよう、大きさを設定して、置くことが出来る、そして、両極性の帯 (95)、または、一つの物体である1個の磁石の領域の上端を返転させる。

which can be ring wise or polarity faced wise and sized positioned above or next to each other, and on the top of the column tip one magnet, either in polarity strips (95) or as a single body.

but preferable several sets

C. 中心領域は、放射性物質 (16E) (すなわち液体、固体またはスプレー) で、内部や外面を処置されるかもしれないまたその材料は放射能によって腐食できる、

またはマイクロ波ランプのような scintillatizion の一定の方法によって処置されるかもしれない

d. 反応炉は複数の領域 (1) (91) を持っているかもしれないので、それの先端は中心の地域に置かれる、そして、少なくとも 1 と(94)は、異なるレベルの先端で、互いと分離している 90 Fig. 9 Fig. 9 92A 16B 93 92B 92C 92C Fig. 7

e. 少なくとも2つの中心軸の領域(fig.7)が、互いの反対側に置かれることもあるかもしれない、類似した回転効果をつくるか、矛盾する回転方向をつくる。

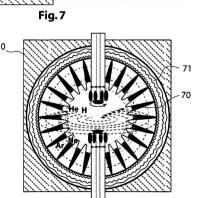


Fig. 5

- f. 反応炉本体には、同一か異なる局面の少なくとも 2 つ別々の中空スペースを含む、
- ${f g}$. 反応炉は、少なくとも 2 つ別々の物理的な芯を含むかもしれない

(すなわち壁-層 14A によって分けられた)、

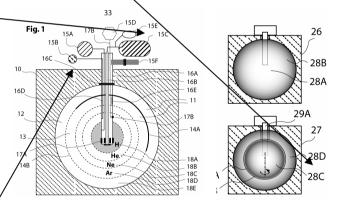
小さいものをより大きい物が取り囲んで各々の内部に適切な独立したプロセスがあるかもしれない、そして、これらの磁場の間で磁気相互作用が起こる場合がある、そして物理的に切り離された部屋(28C と 28D)との間の接続手段(58)で、物質が交換されるかもしれない。

h. 反応炉は少なくとも他の1台の反応炉との間に接続手段があり、局面によって、概念の異なるタイプのものでも、同一につなぐことができる。

· 1. 容器外部で(<mark>15C</mark>)__部屋の外で

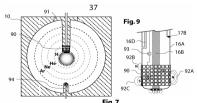
-scintillating シンチレーティンクスパーク装置は少なくとも1つは利用できる(すなわち Cs137 が部分的に作られる)

そしてそれは部屋の中、または、その 外で、通常の放射性のふるまい、また は放射性の自然な減衰を持つ。

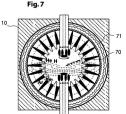


j. 反応炉は、ソリッド構造を持つかもしれない(10)、

有能なダイナミックな構造の存在でも、後になると内部の圧力と温度に構造が適応する、そしてそれは、磁気シール(16C)やフィールドによって維持される。



 \mathbf{k} . また炉心は、例えば、完全な球状(楕円)半-球など、いくつかの全体的な形を持つことができる:



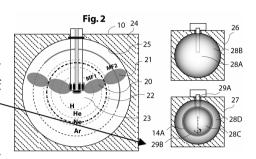
 $oxedsymbol{\mathsf{L}}$ またローカルな、例えば、反応炉の壁($oxedsymbol{\mathsf{25}}$)や物理的な中心の壁($oxedsymbol{\mathsf{29B}}$)、または

全体的な位相的形は、いくつかの、表面や備品を持つことができる:

滑らかに完璧な溝を彫られた(くぼまれた)(三つの角度をなす)ものなど。この面についている物は、内部のプロセスに対してさらなる影響を与えるかもしれない。

m.

物質的な芯(29B)は伝導ワイヤー(すなわち銅) またはバンドで囲まれていることがありえ、これに 類似したことがありえる。そして、それは更なる交 流をつくることができる。そして、中心の中でつく られた直流(s)の上に、それは置くことができる。 そして交流か直流のレベル、または electrovolts レ



ベルは、宇宙空間、航空機と潜水艦のためのアプリケーション、生息可能な海底地、 生息可能な液体の中の土地で使われることができる

(タンク状容器、または、血管のナノ技術のために使用する)、

上述の反応炉の概念と方法とテクノロジーの結果はまた、ローカルな重力のコントロールを意味し完全に新型のダイナミックなエネルギー源とエネルギー概念である。これは、多数の新製品とアプリケーションを生み出す。

これらは別文書でも記述される。そして、それはこの発明の一部である。

最も重要な結果の1つは、重力と反重力の作成である。

我々は、次にいくつかのアプリケーションを見る。

次に、内部での熱源の創造と、二つ以上の磁場の干渉の創造と重力の遮蔽の創造に 至る

そして交流か直流の、電流の生産または electrovolts レベルの、宇宙空間、航空機と 潜水艦のための装置、海底または、水の中の生息地で使うことのできる力を使用す る。

(容器用タンクで、または、血管のナノ技術で使用される)、

コロニー化技術とコロニー化システムで使用される(すなわち海底、海の表面下、または、海の表面の上で、空気が繭にくるまれて存在するような状況を作って)。

同じことは少なくとも 1 つの中心の中、または、システムの境界線の外に、少なくとも他の 1 枚の磁場に反対方向で回転している磁場の、特別な層によってつくることもできる

バッテリーと照明装置の新しい概念 (すなわち反応炉の・透明な外装、電球、床照明、 壁照明とフラッドライト、その他)、セキュリティ用製品 (すなわち交通信号、セン サー、浄水器など) そして、産業と家庭用の装置

そして、エネルギーの開き口で可能になる水-生産機械のようなもの。

また、エネルギー生産能力の使用によって周囲を暖めるための暖房とか、暖房用と 乾燥装置、ボイラーとヒーターのように、家のセントラル・ヒーティング・システ ムまたは個々の暖房システムそして、暖かい毛布地、ウォーミングアップのための ボイラーとして、使う。

または液体のようになる熱い物質、そして、固体材料を混ぜることや、

産業用か商用乾燥システムのためのヘアドライヤーのような乾燥システムとして使用したり、または暖房オーブン、ストーブまたは住宅機器または個人的か商業か産業用の食物機器とグリルで焼くための調理器具として使用する。

この他に、装置はすなわち冬の道路、植物成長のための土、その他を暖める暖房用 器具でありえる。

逆の重力磁場生成システムは周囲から熱を吸収するので、新しいタイプの冷却装置 を造ることができる。

建物と車とクラフトのための空気調節またはどんな物にでも使用してその周囲を冷 やす。

そしてそれは氷の生産や、またはどんな材料または物質でも凍った状態にする冷凍 システムでも、移動し運ぶことができる。

また、エネルギー生産能力の使用で加熱と乾燥装置にし、周囲の物を暖め加熱する ため家のボイラーとヒーターのようにセントラル・ヒーティング・システムのため に使う、または個々の加熱システムとして、暖かい毛布地、ウォーミングアップす るためのボイラーとして使う。

または液体のように熱い物体にし、乾燥システムとして、固体材料を混ぜること、 産業用か商用乾燥システム、または加熱オーブン、またはストーブまたは個人的か 商業であるか住宅機器の調理器具、または産業用グリルで焼くための食物機器、ヘ アドライヤーのように使用する。 反応炉室の特別の磁性物質の下と、中と外での新しい材料の生産および/または重力状態がコントロール可能になる。

他の装置としては、すなわち冬の道路、植物成長のための土や、その他のものへの 加熱装置がある。

その周囲から熱を吸収する逆の重力磁気のフィールド生成システムでシステムで新 しいタイプの冷却装置を、造ることができる、

建物と自動車とクラフトまたはどんな物のためにも、空気調節に使用してもその周 囲を冷やす

そして氷を生産し、どんな材料も凍った状態にするいかなる種類の冷凍システムでも物を運ぶという機能をもたせることができる。特定の磁性物質の下の反応炉室の中と、外で新しい材料の生産および/重力状態が可能になる。

(すなわち原子と分子のナノ成長の方向で、その他を溶接する)

例えば人間、動物または植物細胞のために、原子の創出に関連したいくつかのプロセスが可能になる、そこには一つ以上の磁場の中に磁場の存在がありミクロ重力場が、ある

一つ以上の空洞が中央につくられダークマグネティックレベルを上回る磁場が現れると、原子の核小体をつくるために集まる

そして、階層化したマルチな使用で、電子は現れる、そして、これらのプロセスは、 分子の生産につながるために続けることができ、そして細胞、または器官、または 生きもの基盤の健全な特徴の作成に至るように、DNAのためのベース材料になるよ う特定のエネルギーまたは磁場が、挿入される。

スペースで燃料補給し、食物または酸素を得るために、新しい材料またはパーツに アクセスすることは、単に 宇宙スープのために基本的な問題を撤回することで簡単 にできる、

そして、この方法を原子溶接方法との関連で用いて、連続ベースですべての物質は、 生産することができるか、製造することができる。

需要が起こっても、巨大な在庫品を載せておく必要がない、人はそれが必要な空間 と時間のその地点で製作する

重力装置はそれらの運送のための支持層(すなわち地球面、海、空気などの)との接触なしで動くことが可能になる

例えば重力に逆らって持ち上げる輸送装置、重い製品の引き上げ装置、

動かすことが可能な椅子、体と、子供たちのための車椅子または建築の中心にある (くぼみを使用する) エレベーターのローターに付けたループを無用にする

空中または水上でボードを滑らすか、ボードの浮かぶところで、遊びのためにおどり込むボードのための流れを作るさまざまな種類の羽根も無用にする

大きな物の運搬、自動車とか商業的な船、トラックとトレーラー、液体または固体の物体を、この1つの大陸から他の大陸へまたは惑星または太陽系そして銀河まで、輸送するために使う

表面をすべって行く軌道の使用、飛ぶことができ、磁気遮蔽を持つことが可能な航空機、どんなサイズまたは長さであっても、軌道を無視することができる鉄道のような重力フォース・フィールドを使うシステム

吊り上げリフトとクレーンの使用と、工業のいかなる種類のサイズの物でも、もち上げるためのプラットホーム、液体に使用するため、どんな高さにでも、上げて、浮揚するゲート(門)、反重力の使用によって回るドア、そして、その反重力を使用したドア、テーブルと椅子、ベッド、足の有無を超越した多種類の家具、または歩くための靴などの、これを応用した物理的な付属品とか、

新しい方法とアプリケーションでの、地中開発と探査も可能になる

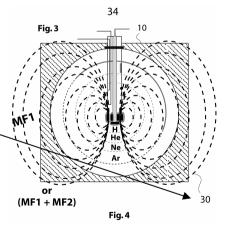
(すなわち空洞の生息地スペースより深い惑星の地中にある溶けた岩の層の探査と 輸送トンネル)

また、作り直すために分解し装置を変える際に、我々は完全に内部の材料または原

子配列の特別の組合せのものなど基本的に新しい物質で作られた古いタイプの製品など面白い装置が見られる。(すなわちプラスチック)

物体の創出に関連してダブル以上にもっと多くの磁場が重畳している製品も、ある(30)、<u></u>

互いに最低2つの層を互いに完全に反対に、回す際に物体の多層磁気遮蔽のためには、少なくともそこで、1つの磁場は、1つの方向で回転でき、また少なくとも1つが一つまたはそれ以上のフィールドに反対方向に回転する、



すなわち強制的な重力の作成によって磁気遮蔽効果がうまれるがそれを潜水艦に使用する、または宇宙航空機産業、飛行機-と宇宙空間の乗物のシステムとその装置に、 そして、ノンエアの-摩擦-システム、材料の溶接産業のための製品、または原子溶接 または分子溶接のために使われる。 新しい電子装置と構成元素は、(すなわちコンピュータ、スキャナ 3D ダイナミック 層によるなど)、ナノワイヤ・トランジスタ、三次元スクリーン、三次元コミュニケーション・ホログラフィック・システムなどが可能になる、

そして、協同して働くメヌエット機械が作動し、コントロールされる必要があった 所にエネルギーのパッケージができるか、それが作動し続けるためにエネルギーセ ルまたはシステムのバッテリーにエネルギーを届けることができる、

ナノテクノロジーのいろいろな面に、またはこれらのマイクロ機械の活動のために、 必要とされる電子流をつくるだけの協同して働くメヌエット・バッテリ・システム が使用される。

重要な装置は、通信システムの分野にもある、ソフトボディまたは少なくとも 1 つの空洞をもつ反応炉のポートを用いて、高エネルギー磁気波が球状領域で放出される、または現在のシステムの場合のように 1 つの方向に少なくとも、磁気エネルギーがコード化されて続けて放出される

しかし、これは銀河系の中では解読するのが難しい、宇宙空間で迅速な反応コミュニケーションで最高の方法は、部屋に元素としてある連続した磁気プラズマによるもので、これが意味するものは、水素プラズマ磁気エネルギーが A で、ヘリウム・プラズマ磁気エネルギーが B であるなら、それによって、小さな部屋の磁気チャージが同時に原子量に従って磁気のエネルギー・フィールド・レベルで放出されるならば太陽系または銀河メディアの情報が失われることもない

周期表の各々の元素は磁気エネルギー周波数を所有し、プラズマ磁気状態で、それ を運ぶ、

そして、その時のラップ(重なり)は取るに足らない

そして、太陽磁気圏の中で破裂バウンチが使われ、現在の衛星アンテナのように次のシステムまたは同じシステムの中の航空機、または他のシステムの中の航空機にメッセージを送り届ける

原子溶接は、原子または分子を近い類似物にまとめあげる、そして、それは一つの 電子または陽子を加えるだけである、

または2つの原子の中性子は1つになる、実際それらは、原子崩壊の逆である または生命システムの方法の片側の側面である、これを科学の世界は、これまでわ からなかった、

たとえばベータ崩壊を行いカリウムがアルゴンになる所で、磁気と重力状態では、

人がベータを加えると、アルゴンからカリウムをつくることができる、

そこでは原子がウランへ行くために水素から必ずしもスタートしない、このように、より高い元素になる単純な溶接点で、宇宙で物理的な創造を適用し、鉄の 56 と 57 から 113 の元素を作成するように、より重い元素をここから作成する、

(溶接点は二重の磁気元素で出来ており、したがってそれは磁気的『暗黒』物質と呼ぶことができる)。

目標とされた惑星からの引力を使ってどんな燃料も使用しないで宇宙旅行し 惑星引力の作成のために、ダブルの磁気材料で中心のコアを一つ以上つくり 120度の位置にある、独立した3つに送ることができる。

1台の反応炉は、そのことで満たされ、そして、他の2台の反応炉にアプローチする または、異なる磁気暗黒物質を使って重力をブレーキとする、または減速システム にするため近くの、目的地とは逆の後ろの方向にする

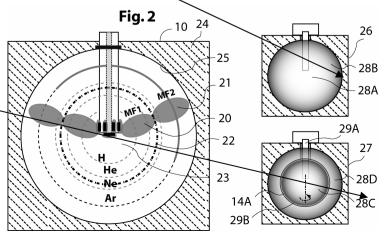
重力の位置によっては 2 つの磁場が反対であるが、合致している所では非具体的な磁気ロックにすることさえも可能である。これらの装置は、現在、ここで要求され、将来の特許で更に詳細に開発されるかもしれない。次に、いくつかの特別の主張はこの発明に関連がある、そして、これらは言及された付属書類でも中に記述されている。

反応炉・実施例 (26) は、1つの回転している部屋だけを持つことができる。 この反応炉本体 (26) には、少なくとも 2 種の異なる原子量の挿入されたガスを含むことができる

そしてそれら自身の中で遠心効果が階層化するようにされている:

(1) 内部には軽いガス (ses) で (いわゆる内核 <mark>28A</mark>) (2) 外側には重いガス (ses) (いわゆる外核 <mark>28B</mark>) がある。

もう一種類の反応炉の具体化したもの($\frac{27}{27}$)は、少なくとも $\frac{2}{2}$ つの内部の部屋($\frac{28C}{2}$ と $\frac{28D}{2}$)を持っている。反応炉は少なくとも $\frac{1}{2}$ つは動かないものだが、($\frac{2}{2}$ 8D)内部に少なくともあわせて $\frac{2}{2}$ つの



容器を備えることができる。

新しいタイプの汚染除去システムと、人と、動植物の細胞と生命の放射線防護、CO2 分解システムなどの成長挑発的な磁気条件が可能である。、(すなわちプラズマ-マル チ-カラー光)

武器システムで新しい進展が、起こりうる

(すなわち、反応炉壁の断片はコントロールされた状況の下で開けられる、あるいは、少なくとも1つの層・の芯は、物理的な手段や少なくとも1つの磁場によって開けられる)

原子か分子レベル物質の部分的か完全な磁気崩壊で、空の航空機、船、タンク、住 宅、(隕石) 更にはレーダーからの秘密システムのように、いろいろな物からガード するための防護用システムの分野になることが可能である

(レーダーから入って来るエネルギーが見えない影響のために EM-吸収システムとなり、物体、装置と装置の内部の磁気秩序によってうまれる一つ以上の磁場のもつれで完全に吸収されることが可能になる)、

完全に新しい方向の磁気毛布地に、することができる。

アプリケーションのもう一つの分野は、Housing ハウジングの概念と製品の分野にある(磁場遮蔽のために使われるべきもので、通過を妨げるとか、ブロックするための物とか、または、外観を隠す物とか家のドアまたは家の壁のようなもの、あるいは、二重ガラスまたは艶出しガラスでも、この目的のために使われる他の材料またはガラスもこれに置き換わることとなる、(物、または、そこから入るためのドアまたは壁のような)、

または現在の、蚊帳と窓の蝿除け網に使われるのに似た小さなもの、または、太陽 または雨や特定の物やどんな物でも、物体の入場の防止は、フィールドによってあ らかじめ決めることができ、屋根ふき材と床のフローリングに反応を起こさせるの を防ぐための傘として使える。

エネルギー放出メカニズムに関係して、芯が柔らかい、格納式の壁システムを使った製品と装置を設計することができる

それは、プラズマまたはエネルギーまたはオブジェクトを公開するため、または、 少なくとも一つ以上のシステムの中核材料の一つ以上の使い方のために使うことが できる、

あらゆる種類のリベット機械、釘うち機械または銃として使われるか、防御とレーザーまたは余暇で銃を撃つとか、ダイナマイトのように前にある物質の破壊のため

に使用して(どんなスケール、または、どんな力のボール盤でも)狩猟用や歯科医のボール盤、隕石または前方の物体の破壊のための宇宙兵器として使え、その目標に届けられる物体は、現在のロケットや現在のボルトのような物理的容器を持たない、しかも、磁気的なまたはプラズマ、またはいかなる種類の物質のエネルギーのパッケージもない。

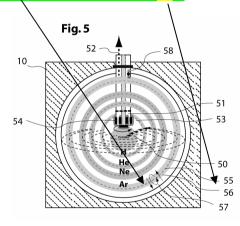
真空システムの吸収のための新型の吸引機械または磁場またはシステムのもつ引き つける力の使用による他の物質を引きつける力は家の掃除機または産業掃除機の様 に、どんなガスまたは液体の吸収、物理的な吸引のためにでも使われる、

または、状況の汚染の手入れにおいてその差し迫った環境の固体材料は、回転の異なる速度で、少なくとも 2 枚の中間層(57、55)の間で、磁気の強さのヘリシティhelicities と、様々な原子量、を通して材料はつくることができる

それが自身の局所的な磁場ブラックホールをつくるの<<適切な条件になる、(<mark>56</mark>)。

または付属書類に記載されているような説明のように、(セクション「ブラックホールの作成」)、磁気トンネリング材料は、反応炉のコア領域から、または外の物質からポートホールをブラックホール状態にするよう促進することによって、ブラックホール領域に吸い込まれることができる

また、新製品が二つ以上の磁場の作成と相互作用に 至る事で、重力の生成にむかうその内部の熱源の創 造に、関係するのを、我々は見る



磁場が交替することで、または、それを直接保護することで現在の電流生産または electrovolts は水平になる。そして、それは宇宙空間、航空機と潜水艦(コロニー化 技能)で使われる。

それはいくつかの消費者用製品(例えば織物)が(メモリーに記憶されることで)、 作成される、

そして、内部に重力コントロールを所有するか産業または遊びのためのおもちゃのような速い装置のためのもの、

人間または動物またはどんな物にでも使える真空スーツ(すなわち人間の空中浮遊 リフティング・ベルト)そして、スポーツ用の製品、浮遊のためのベルト、磁気 ジ ールド・ボウル(空中浮遊(重力は逆にされることができる)、重力をコントロール して液体またはガスの中にでも潜水するための潜水服と発熱体)のために使ういろ いろな材料。

この製品と、機械と装置は、ありとあらゆる材料の生産または容器を形づくるため に磁気圧力を使い、鋳造と圧力鋳造物に、関係することが可能となる または圧力ポンプと揚水ポンプシステムのようにさまざまな材料と、物を吸い上げ

ルコンピュータ印刷産業のための<mark>揚水ポンプのような</mark>注入器

そして、エッチング・システムと石版印刷(印刷業界)

(すなわち転移プリント i.e. transfer print)

そして、編み込みと集積層産業 platting and lamination。

この重力機械は材料の生産のために使うことができる、そこで、フラスコまたは部屋のような内部の空洞(材料は生産される)を回すことによって、反応炉の一つ以上の磁場は、封じ込められた内部の物理的な境界線を通り過ぎて内部の空洞に、無重力状態をつくるが、真空状態にはならない、このきれいな所はシリコーンその他の生産、または、無重力状態が必要なミクロ・チップ産業のために使われる。

また、磁場にマッチするため一つ以上の柔らかい磁場が作成されるべきであるが、 重力システムを所有すると同時に医療用の温度のコントロール条件で再び磁気を設 定すると、新しい医療器具と装置が、可能になる、またはティッシュからガン 細胞を根絶するためとか、ヒト細胞のエネルギー準位と血液がんのために、血球ま たは体の正確な位置の部位の成長の条件を作成することができる(遠く離れたとこ ろから物質を操作して)(透析の機械のようにして)

または組織を切らないで器官を取替える、または器官の外側から器官に達し、問題部分の非侵入的な手術をする、

より柔らかい状況でパン粉をまぶすことが可能にするために重力を減らすことができ、母体の再生器官の内部環境の熱と液体の状態が複製できる、

早産で子を生んだ子供の保育器や、

動物の出産のための保育器や、中の器官の変化させて、侵入的な方法なしで器官を 移植する

そこから離れて多くの重力レーザービームをだして、中の器官の位置に再接続した

り、その位置の器官を揺らす

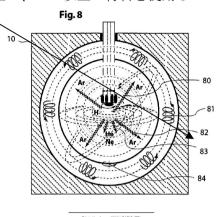
もちろん、空洞に、He (83) と Ar (82) 層に特に置かれた正の電極から、適切な 荷電粒子の収集を用いる、または、適切な材料層の上の、一つ以上の材料を使用し

た、この非常に重要な装置と方法は、電力の発生に 関連がある、

そこでの作動のために正電荷は、負電荷と同様に利 用することができる

それは中、または外側で使われる

システムのパラメータとしての、陽子キャリーまた は大部分のパーツに対応してその電子以上の多くの エネルギーは、反応炉の一つ以上の空洞に集められ る、



そして、それによって全ての原子の部分からのすべてのエネルギーを完全に利用する。磁気暗黒物質さえ利用可能である、

そしてこれは今まで使われたような、電子ではない

原子結合させるアプリケーションとテクノロジーは一緒に物質を生産するか、溶解させる単純な融合方法になるーそこで一緒に原子を融合するために、大きなエネルギーが要求される

-そこでの原子溶接は原子または分子を、一つの電子または陽子を加えるだけで類似物に近いものにまとめる、または2つの原子の中性子は1つになる、それらは、 実際は原子崩壊の逆である

または生命システムの方法の半分の側面である、

これを科学の世界は、これまでわからなかった、

たとえば<mark>カリウムがアルゴン</mark>になる所でベータ崩壊がおきているが、人がベータ線を加えると、磁気と重力状態によっては、アルゴンからカリウムをつくることができる、

原子がウランへなって行くのに、このように必ずしも水素からスタートしないで、 宇宙での物理的な創造過程を適用する、

これらは鉄 56 と 57 から 113 の元素を作成するように

単純な溶接点のここからより高い元素へより重い元素を作成する、

(二重の磁気元素であるこれは、したがって磁気的『暗黒』物質と呼ぶことができる)。

目標とされた惑星からの引力を使ってどんな燃料も使用しないで宇宙旅行をし

惑星引力の作成のために、そこで二重のダブルの磁気材料で一つ以上の中心のコアをつくり 120 度の位置にある、3 つの独立したものに送ることができた。

1台の反応炉は、そこで満たされ、他の2台の反応炉にアプローチする

または、異なる磁気暗黒物質を使って重力をブレーキとする、または減速システムにするため進行方向を近くの目的地とは逆の、後ろ向きの方向にする

2 つの磁場が合う所で、重力の 位置での見えない磁気ロックさ え可能である、しかし、その反対 側で、これらの磁気は互いにから み合うことができる。

これらの装置は、現在、ここで要求し、将来の特許で更に詳細に開発されるかもしれない。

次に、いくらかの特定の主張はこの発明に関連がある、 そして、これらは言及された付属書類の中で記述される。 反応炉-実施例(26)は、1 つだけの回転する部屋を持っていることができる。

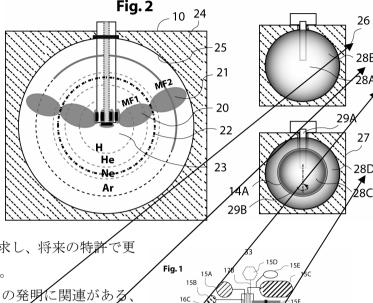
この反応炉本体($\frac{26}{2}$)は、少なくとも $\frac{2}{2}$ つの挿入された 異なる原子量のガスを含むことができる

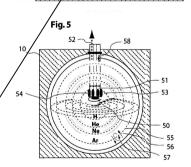
そしてそれは、中でこれら自身の遠心効果が階層化する ように置く:。

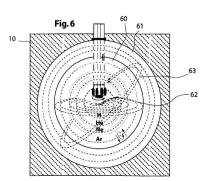
多めに見積もっても(1)内部 (いわゆる内核(28A)) のより軽いガス (ses) と外側の(2)重いガス (ses) (いわゆる外核(28B)) をガス処理する

もう一種類の具体化された反応炉- (27) は、少なくとも 2 つの内部の部屋 (28C) と 28D を持っている。 反応炉は、少なくとも 1 つは動かないもので (28D) そこから少なくとも 2 つの内部の容器を備えることができる

反応炉本体は少なくとも2つの内部の容器を備えていることができる、そこから、少なくともその1つ(28C)







は、(29)と一緒に両方が回転する中心領域と関係がある、

反応炉(10)は回転する中心領域(16A)を持っているが、中心領域が動かない反応炉 を製造することも可能かもしれない。

少なくとも1つの部屋に中心領域がない反応炉を造ることも、できる。

また、反応炉は少なくとも2つの部屋に異なる中心領域が、中にあるように 造ることもできる

中心領域には、最少 1 つの部屋で、例えば完全に入れ子式のと、部分的に入れ子式 のと、中にセキレイがあるのと、中にセキレイなしのと、部分的にダイナミックな

いくつかの形や概念がありえる(すなわち、先端だけ

の、一部を回転させるなど):

意図的な目的(使われる材料、これらを挿入する方法 と満たす条件)を考慮した後、中心領域は設計される。 中心領域は回転刃またはサドルを持つかもしれない。 そして、いろいろな材料(すなわち放射性がある物質) でおおわれている。そして、磁気

手段を備えている、(すなわち 固体、液体、コイル、電磁気、 イオン化電極エミッタ(すなわ ちランプ、電子レンジ、化学製 品など)。

反応炉 (図 1~9) は、1 つの 部屋で少なくとも球状か他の

形の非具体的な磁場を1つくる。(20,21,30,40,(MF1 + MF2)

41, 50, 62, 63)

しかし反応炉 は、少なくとも球形に2つ作ることができ 的な磁場が重畳するか、少なくとも1つの部屋の内部を、取 り囲む。

少なくとも 2 つを球形に作れる反応炉も要求している、(図

2) あるいは、他の形の非具体的な磁場 (20、 **21**) は、重力と反重力(すなわちリフト、空中上昇)や 少なくともダブルの磁気 **圏**効果を (22) 作成

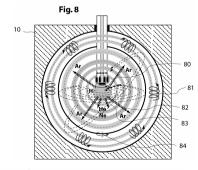
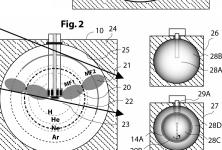


Fig. 4



するために、内部の少なくとも他の 1 つの部屋の 1 つの磁場と重畳するか、取り囲 む。

少なくとも2つを球形に作れる反応炉(図2)も要求し、あるいは、他の形の非具体 的な磁場(20、21)は、核融合プロセスの間の重力の位置でもあり、そのようなプ ラズマの封じ込めを含めた、冷たいかホットな核融合プロセスの間、プラズマの作 成のために、少なくとも他内部の1つの部屋に1つを重畳させるか、取り囲む。(す なわち発電と、新しい材料の生産もおこなわれる)

反応炉は、少なくとも2つの磁場の間で、そして、少なくとも1つの部屋の中の1 枚の材料の層と磁気フィールドとの相関関係を通して 1 つの部屋でイオン化、乱気 流、対流、回転とプラズマと少なくとも電流 (80、81、82、83) を発生させるとも 主張する。

熱反応炉は、イオン化、乱気流、対流、回転とプラズマと磁場で 1 つの部屋の中に 少なくとも熱を発生させるとも主張する

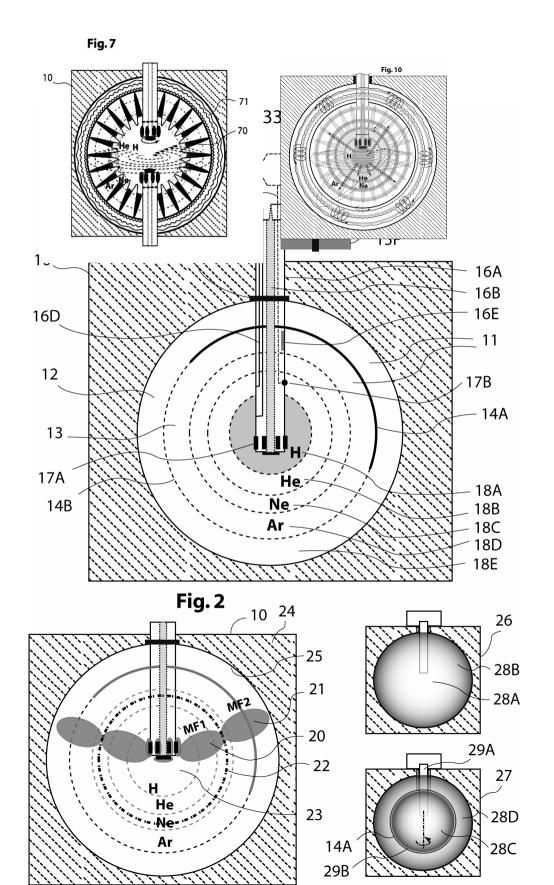
そして、少なくとも2つの磁場の間、そして、少なく とも1つの部屋の中、または、反応炉の外周の1枚の 層の材料との相互作用で熱くなる。(すなわち蒸気) (すなわち、伝熱のため、交換器または暖房または照 明となる。(それは少なくとも1つの部屋の中の1つ の材料に、または、反応炉の内部から周囲の外層に熱

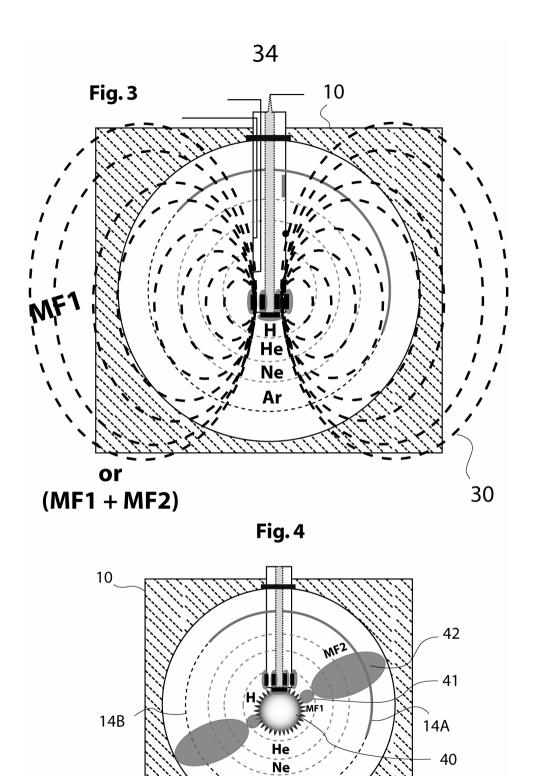
(70) を届ける)

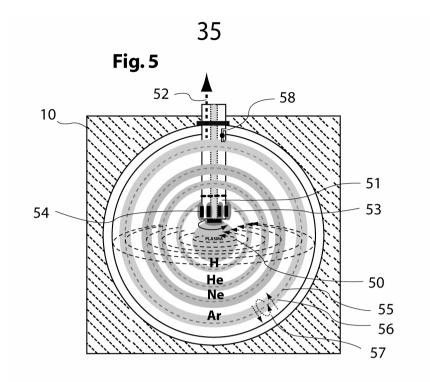
反応路は、イオン化、乱気流、対流、回転とプラズマ、そして、磁気のフィールド と少なくとも2つの磁気のフィールドの間の相互作用を通して1つの部屋と、少な くとも1つの部屋の中の1枚の層の材質に、中で冷却を引き起こすとも主張される、 少なくとも 1 つの部屋、または、反応路の、または、反応路の外周と内部の周囲の 外層の少なくとも1つの材料に冷却の効果をつくる。

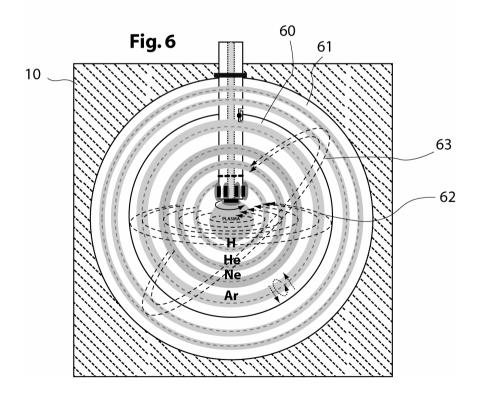
そして最後に ― 少なくとも 1 つの部屋の中に ― すべての種類の熱、電流、磁場 (重力とプラズマ)、すなわち宇宙船技術、磁気遮蔽を所有する反応炉(図10)であ る。

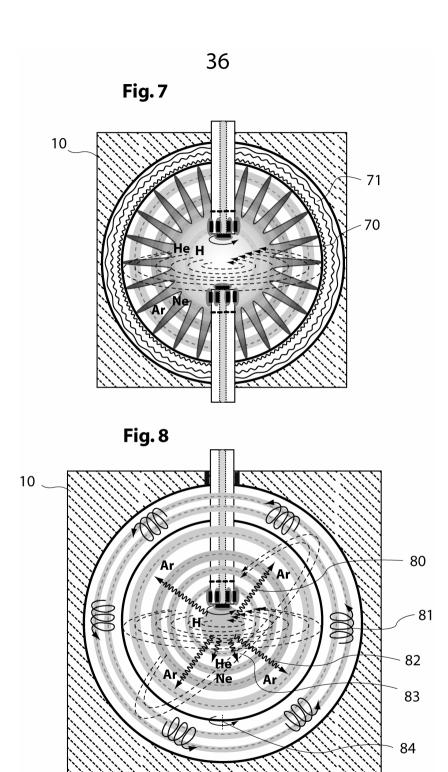
この発明は、いろいろな領域に人類のために相当な進展と自由を持ってくることを 目的とする。

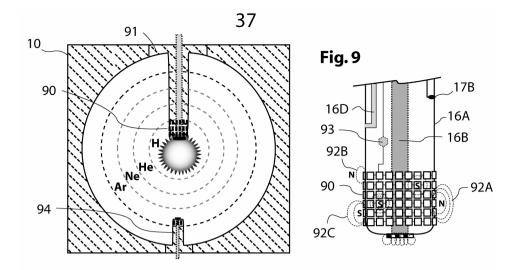


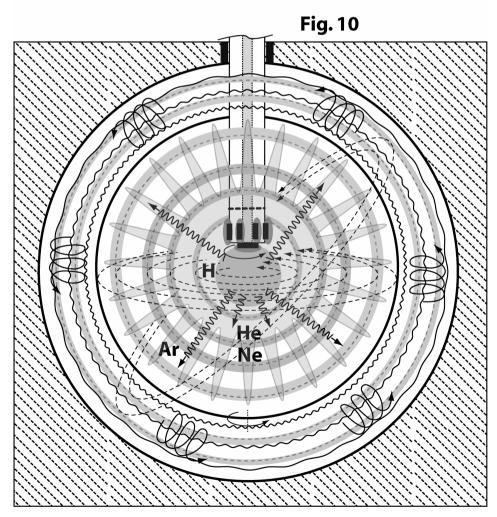




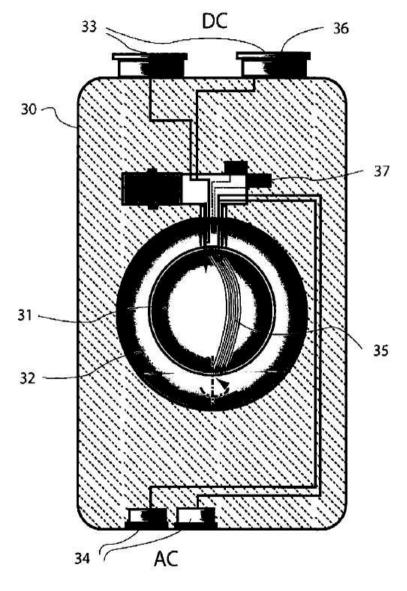








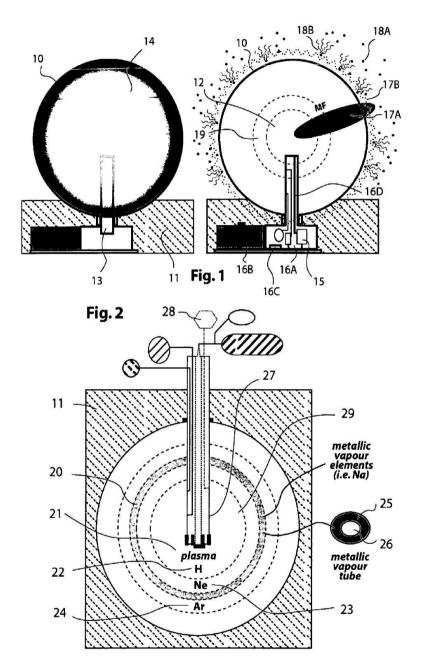
以上パテント1に付随した図



9 V BATTERY TYPE

Fig. 3

EP 1 770 715 A1



EP 1 770 715 A1

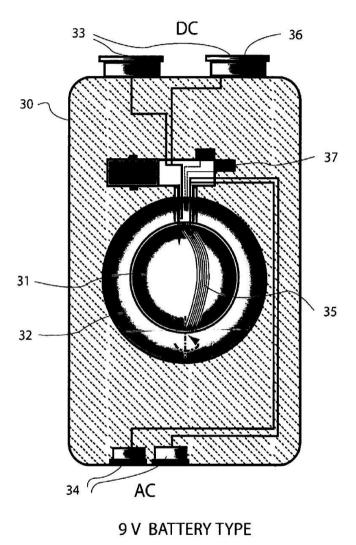
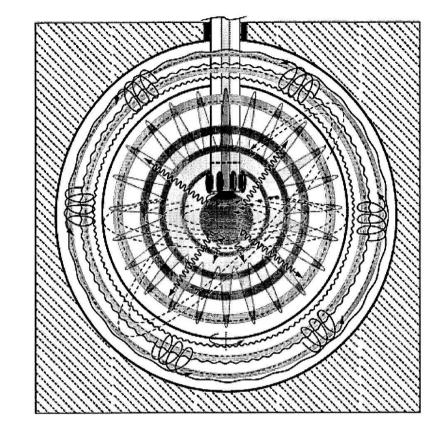


Fig. 3

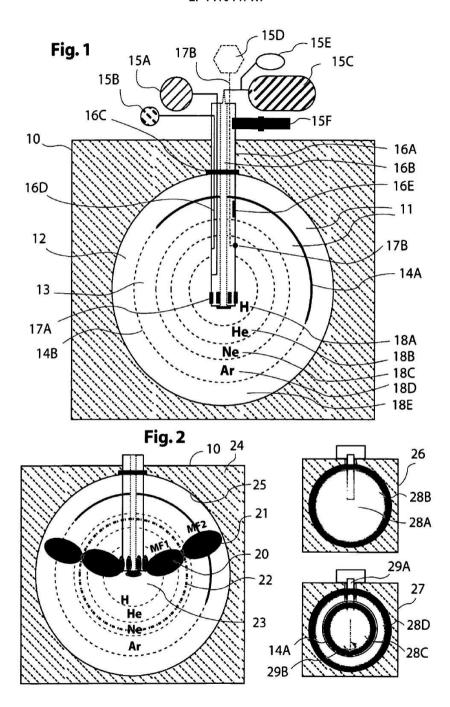
EP 1 770 717 A1

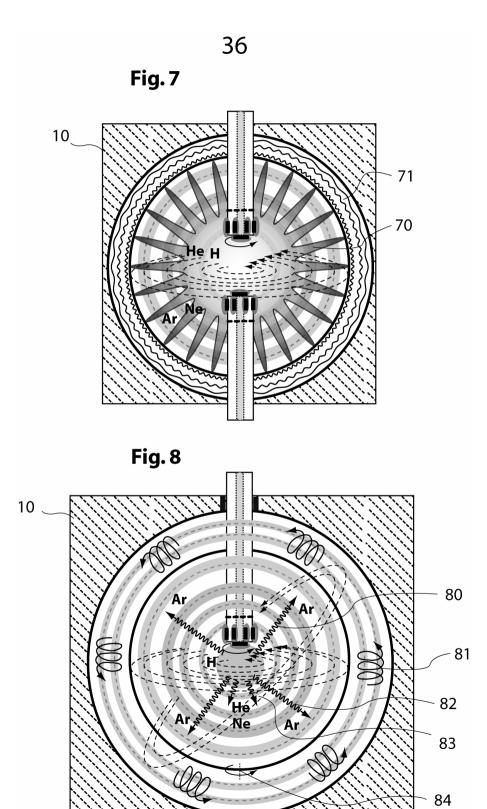


The principals of new gravitational and energy system design and technology (ITNOTGOG)

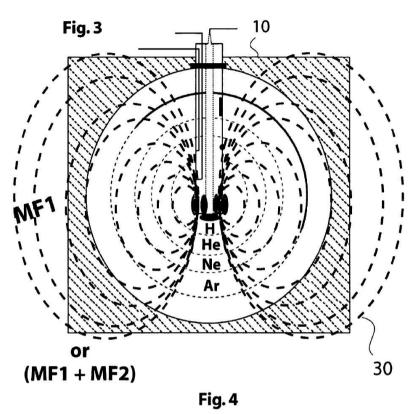
© M.T. Keshe, 2005. All rights reserved.

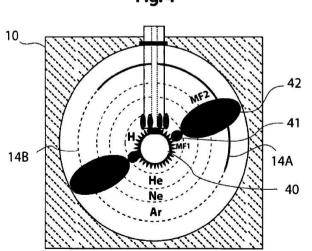
EP 1 770 717 A1



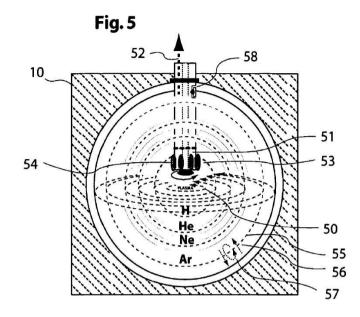


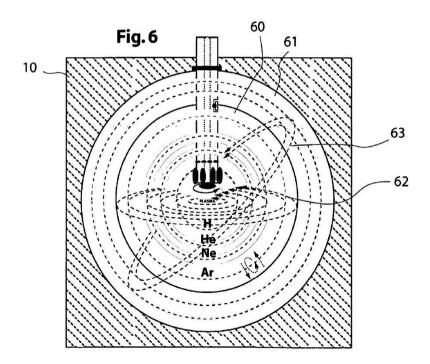
EP 1 770 717 A1

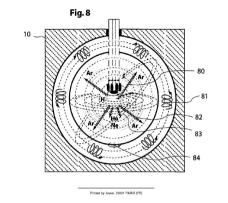


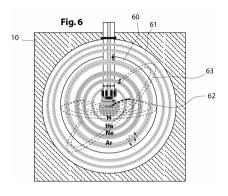


EP 1 770 717 A1









EP 1 770 717 A1

